

第5期 事業計画

(2025年4月1日～2026年3月31日)

公益財団法人大阪陸上競技協会

(概括)

本会は、陸上競技を通じてスポーツ文化の普及及び振興を図りもって府民の心身の健全な発達に寄与し、豊かな人間性を涵養することを目的としている。本目的を達成するため、社会経済環境の変化に柔軟に対応しつつ、以下の事業を一連且つ相互に補完する公益目的事業を実施する。

近年、少子高齢化が進展する中、登録競技者数、公認審判員登録競技者数の減少がみられるなど、陸上競技をめぐる環境にもその影響が想定される。また、感染症拡大期を経てマラソンブームの過熱時代にも変化が認められる。そのため、競技者、ステークホルダーに加え、陸上ファンや一般市民が魅力を感じられる競技会やイベントを企画、運営していくことが重要な課題となっている。こうした環境変化に対応し競技者育成を図り、主催競技会等の魅力を高める企画を展開していくとともに、競技運営においては、競技者、観客、サポーターの満足度を引き上げ、一般市民に向けた広報活動を強化し、陸上競技の更なる魅力の向上に取り組んでいく。併せて、幅広い関係機関との連携を進め諸事業の活性化を図っていく。

小陸研、中体連、高体連、関西学連、関西実業団連盟などの関係団体と連携し、競技者の育成、強化を図り、全国的競技会での入賞等を図れるように取り組むとともに競技者の拡大を図るため各種の強化、育成事業を推進し陸上競技の魅力を高めていく。

ロスアンゼルスオリンピック競技大会でのメダル獲得を目指し地元大阪の若きアスリートを発掘、育成し競技のレベルを引き上げるとともに、スポーツ文化の普及及び振興を深めていくため、第三期OSAKA夢プログラム事業を推進し、海外の指導者と連携しつつ指定選手の育成、強化を図っていく。また、大阪マラソンは、記録、参加者数、満足度において世界トップレベルとなるよう充実・強化を図る。また、地域の活性化やまちづくりに資するよう、経済界、府市と協議を深め実施組織の法人化を検討していく。木南記念陸上競技大会は、引き続き国際化を推進していく。一般市民がスポーツを通じた健康社会づくりを体験する長居スプリントチャレンジ事業など府民が誰でも参加できる普及活動や関連事業を充実させていく。子どもたちがスポーツを通じて豊かな感性をもち成長していくよう、運動の苦手な子どもたちも心身ともに健全に成長していくとともに、未来のトップアスリートを目指す青少年層の育成を図るため大阪アスレチックスアカデミア事業を充実していく。

これら事業を着実に推進していくため以下の項目の事業を推進し、併せて組織基盤の充実を図るとともに各事業の相互連携を図り、各事業を関連付け一体的に実施していくこととする。

1. 陸上競技に関する諸計画の実施及びその技術指導等に関する事業

当協会は2025年度において、別添「2025年度大阪陸上競技協会が関係する競技会」表及び「2025年度大阪陸上競技協会競技会日程表」の通り、主催・主管・共催競技会も含めた大阪府内で実施される全ての競技会に役員、審判員の派遣し技術指導を行う。

次の競技会を重点競技会とし、当協会の総力をあげて実施し、IT機器、音響、映像の活用により、質の高い運営や技術の向上を図っていく。

- ・2025年度大阪陸上競技カーニバル
- ・第102回関西学生陸上競技対校選手権大会
- ・日本GPシリーズグレード1（WAコンチネンタルツアー・ブロンズ）第12回木南道孝記念陸上競技大会
- ・第69回関西実業団陸上競技選手権大会

- ・第93回大阪陸上競技選手権大会
- ・第93回近畿陸上競技選手権大会
- ・2025年度大阪陸協加入クラブ対抗陸上競技大会
- ・第28回全国視覚障がい者駅伝大会
- ・中之島2025競歩大会
- ・日本GPシリーズグレード2エディオンディスタンスチャレンジ in 大阪2025
- ・ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズG1第45回大阪国際女子マラソン大会
- ・2026大阪ハーフマラソン大会
- ・第7回関西学生ハーフマラソン選手権大会
- ・第109回日本陸上競技選手権大会・室内競技
- ・大阪マラソン2026

上記以外の競技会では近年参加者の減少が進んでいた「長距離記録会」を、今年度は回数を1回に集約し、内容を変更して実施する。

また公認競技会ではないが、陸上競技の普及発展の為一般市民ランナーや未登録者を対象とした長距離大会や駅伝を計画する。

2025年度競技規則修改の周知については、全公認審判員に対し年度当初から数回にわたる審判講習会を通して徹底する。

2. 陸上競技会の主催、運営等に関する事業

(1) 国内競技会

1) 2025年度大阪陸上競技カーニバル

当協会が実施する競技会のうち唯一小学生から一般まで全ての種別が参加する競技会でありシーズンの幕開けにふさわしい競技会として運営する。

2) 第102回関西学生陸上競技対校選手権大会

2年振りの開催であり、関西学生のトップレベルの大会にふさわしい競技会となるように、前回同様学生競技役員を指導しながら競技運営を行う。

3) 第69回関西実業団陸上競技選手権大会

今年から3年間継続して実施予定である。過去の大阪開催での実績を踏まえ、昨年の総括を含めてよりレベルの高い大会運営を目指す。

4) 第93回大阪陸上競技選手権大会

大阪の選手権者を決める最高位の競技会であるので、それにふさわしい競技運営を行い競技者が最大のパフォーマンスを発揮し記録を達成できる大会を目指す。

5) 第93回近畿陸上競技選手権大会

近畿府県の持ち回りで行われる大会で、前回の大阪開催時の実績を生かしきめ細やかな大会運営を目指す。

6) 2025年度大阪陸協加入クラブ対抗陸上競技大会

シニア中心の大会であるが、学生にも門戸を広げ盛り上がった大会を目指す。一方、今年は参加者が極端に少ない種目及び現代では馴染みが低いメドレーリレーを廃止して実施する。

7) 第28回全国視覚障がい者駅伝大会

第16回大会から大阪で開催しているが、全国の視覚障がいランナーと伴走者が集う唯一の大会であり、その開催意義を踏まえ引き続き開催する。

8) 中之島2025競歩大会

都心部で実施する唯一の競歩大会として一昨年から実施されており、今年も種目を絞って開催する。

9) 日本GPシリーズグレード2エディオンディスタンスチャレンジ in 大阪2025

1年を通してポイントを争う競技会のうち長距離に特化した大会であり、大阪陸協が主管して3年目となる。ライブ配信を実施する。

10) 2026大阪ハーフマラソン大会・第7回関西学生ハーフマラソン選手権大会

ここ数年男女共に有力選手による記録向上が見られる。今年度も実業団を中心に積極的に選手招聘を行い国内トップレースを目指す。併催する関西学生ハーフマラソン選手権大会も年々参加者増加と記録が向上しており、両大会の相乗効果を期す。

11) 第109回日本陸上競技選手権大会・室内競技

日本国内唯一の室内競技会であり、シニアからU16までの各世代のトップアスリートを集めシーズン幕開けの大会として運営する。加えて小学生の種目も実施し、ジュニア世代の育成を図る。

(2) 国際競技会

1) 日本GPシリーズグレード1 (WAコンチネンタルツアー・ブロンズ) 第12回木南道孝記念陸上競技大会

競技会運営そのものは永年のノウハウを生かし適切に対応できているが、例年ネックとなっている海外選手の招聘については業者委託も視野に入れながら対応したい。また、昨年から有料試合としており、さらなる観客増員を図る為の様々なイベント等も企画していきたい。

2) ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズG1第45回大阪国際女子マラソン大会

コース変更により日本新記録が達成されたことで記録が出る大会として位置づけられており、昨年も世界陸上選手権の参加標準記録を複数名が達成した。女子マラソン界をリードする大会としての地位を確保し、国内外の有力選手を招聘して世界に羽ばたく女子選手の輩出を期す。

3) 大阪マラソン2026

都市型市民マラソンとしてスタートしたが、数年前よりエリートも加わり競技性の高い大会となった。コース変更も行われた結果4年続けて初マラソン日本最高が誕生し、学生新記録も2年続けて達成されている。さらなる競技力の向上を追求しながらも、3万人を越えるランナーが安全安心に参加出来る大会運営を目指す。

3. 陸上競技会に対する役員及び競技者の派遣に関する事業

各競技会に向けて大阪代表として相応しいレベルの代表選手を選考し、派遣する。

(1) 国内3大競技会への監督・コーチ・選手派遣

① 国民スポーツ大会 (2025年10月3日～7日：滋賀県・平和堂HATOスタジアム)

・上位入賞を目指す競技者で選手団を編成し、天皇杯 (男女総合優勝) および皇后杯 (女子総合優勝4連覇) を目指す。

② 皇后盃 第44回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会 (2026年1月11日：京都府・たけびしスタジアム京都～付設駅伝コース)

・皇后盃 (総合優勝) を目指す。

③ 天皇盃 第31回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 (2026年1月18日：広島県・平和記念公園前発着コース)

・上位入賞を目指す。

(2) その他の競技会への監督・コーチ・選手派遣

① 第79回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 (2025年7月25日～29日：広島県・ホットスタッフフィールド広島)

② 第52回全日本中学校陸上競技選手権大会 (2025年8月17日～20日：沖縄県・タビック県総ひやごんスタジアム)

- ③ “日清食品カップ” 第41回全国小学生陸上競技交流大会（2025年11月2日：神奈川県・日産スタジアム）
- ④ 第19回U18／第56回U16陸上競技大会（2025年10月17日～19日：三重県・三重交通Gスポーツの杜 伊勢陸上競技場）

4 陸上競技指導者等の表彰に関する事業

公認審判員活動、競技者指導、競技活動等の実績を踏まえ、審判員、競技者、指導者等の表彰を実施する。

大阪選手権大会において、次の表彰を行う。

①公認審判員、指導者等の表彰

- ・大阪の陸上競技界において、長年功績のあった公認審判員に対して経歴、実績を評価し「功労賞」を授与する。
- ・大阪登録のジュニア競技者の育成に顕著な功績のあった中学校、高等学校の指導者に対して、「優秀指導者賞」を授与する。

②競技者の表彰

- ・大阪新記録、同タイ記録の樹立、日本選手権大会等の全国的な競技会の優勝などの功績を残した競技者に対し「勲功章」を授与する。

③その他の表彰

- ・弊会登録競技者が世界記録・アジア記録を樹立したときには、競技者・指導者を表彰する。

5. 陸上競技選手等の育成・指導に関する事業

（1）強化事業（競技者の育成）

国内3大競技会（国民スポーツ大会、全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝）での総合優勝を目指すとともに、明日を担うジュニア（中学生・高校生）の強化育成を図る。

- ① 女子長距離夏季強化合宿（2025年7月中旬：岐阜県御岳高原高地トレーニングエリア）
- ② 男子長距離夏季強化合宿（2025年7月26日～29日：岐阜県乗鞍高原グラウンド）
- ③ 小学生中学生合同練習会（2025年7月25日：服部緑地陸上競技場、2026年1月10日：万博記念競技場）
- ④ 国スポ強化合宿（2025年8月26日～28日：滋賀県水口スポーツの森）
- ⑤ 国スポ強化練習会（2025年9月23日：万博記念競技場）
- ⑥ 強化選手＜中学生・高校生＞練習会（2025年12月6日、2026年2月14日：万博記念競技場）
- ⑦ 高体連強化育成練習会（2025年12月25日～27日：ヤンマーフィールド長居）
- ⑧ 冬季大阪ジュニア陸上強化合宿（2025年12月25日～27日：和歌山県紀三井寺陸上競技場）
- ⑨ 男子駅伝チーム合同練習会（2025年12月～2026年1月、数回：長居公園、金岡公園）
- ⑩ 女子駅伝チーム年末合宿（2025年12月28日～29日：京都府・駅伝コース）
- ⑪ 女子駅伝チーム試走合宿（2026年1月4日～6日：京都府・駅伝コース）
- ⑫ 男子駅伝チーム試走合宿（2026年1月4日～5日：広島県・駅伝コース）
- ⑬ 冬季強化合宿（2026年1月4日～7日：鹿児島県ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅）
- ⑭ 中体連強化選手練習会（2026年1月24日、2月23日、28日、3月14日：万博記念競技場）

- ⑮ 春季大阪ジュニア陸上強化合宿（2026年3月27日～29日：和歌山県紀三井寺陸上競技場）

（2）指導者の育成

日本陸上競技連盟が2020年度に策定した「指導者養成指針」に従って指導者の養成に努め、有資格者（日本スポーツ協会および日本陸上競技連盟公認スポーツ指導者）を増やしていく。

- ① 日本陸上競技連盟主催「JAAF公認コーチ＜JSPO公認陸上競技コーチ3＞」養成講習会へ相応しい指導者を推薦し、派遣する。2025年度は高体連より2名推薦。
- ② 2025年度も「JAAF公認ジュニアコーチ＜JSPO公認陸上競技コーチ1＞」養成講習会を開催する。（2025年8月14日～15日：万博記念競技場）
- ③ 2025年度も「JAAF公認スタートコーチ＜JSPO公認スタートコーチ＞」養成講習会を開催する。（2026年2月28日：万博記念競技場）
- ④ 冬季大阪ジュニア陸上競技指導者研修合宿を開催する。（2025年12月27～29日：和歌山県紀三井寺陸上競技場）
- ⑤ 近畿ブロック研修合宿へ指導者を派遣する。（2026年1月10日～12日：和歌山県紀三井寺陸上競技場）
- ⑥ 有資格指導者への情報発信、資格更新研修会を開催する。
- ⑦ 中学生・高校生の指導者対象に各種目別実技指導講習会を開催する。

（3）大阪アスレックスアカデミア陸上教室

大阪アスレックスアカデミア事業は、幅広く一般府民を対象に令和3年9月から試行的に実施し令和4年度から正式にスタートした。令和5年度からは中学生にクラブを創設し中学生の公式競技会に参加し、今年度は全サイクルの完成年を迎える。ヤンマーフィールド長居を練習拠点として小学生、中学生、社会人合計160名の受講者により、陸上教室による心身の健全な育成を図っている。令和7年度においては、小学生、中学生を中心に社会人を加え250名の受講者を目標に受講者を募集する。

小学生の発達期における心身の健全な成長に資するようカリキュラム構成に意を用いていく。また、中学校体育連盟主催の競技会に参画していくためのクラブチーム「アスレックスアカデミア陸上クラブ(カテゴリー;登録生、練習生)」を推進していく。本事業により、将来の我が国のトップレベルの競技力を育成、指導していく基盤となるよう取り組んでいく。中学生の地域競技会、全国的大会等に出場し上位記録を目指す。今年度は、収支の均衡を図るため、社会人コース受講生の拡充などに取り組み、本事業の収支改善に取り組む。

＜陸上教室・アカデミア事業の理念＞

- ① 陸上競技を通じて、生涯にわたりスポーツを楽しめ、健康維持・向上につながる場を提供する
- ② 小中学生が楽しく陸上競技を学べる場を提供する
- ③ アスリートとして自己の目標に挑戦する場を提供する
- ④ 陸上競技の普及と発展を図る

この4つの目標を達成していくため、幅広く府民を対象として毎月3回(毎木曜日18時～20時)、年間36回の教室をヤンマーフィールド長居・ヤンマースタジアム長居において大阪市の後援のもとに実施する。

具体的には、指導経験豊富な指導者、看護師など20名を配置し、小学生低学年の部、高学年の部、中学生の部、障がい者の部、社会人の部に分け、基礎運動を楽しんで体験できるよう、それぞれの発達や能力に応じた練習内容を検討し育成、指導していく。

今年度は、一般府民・社会人、熟年者向けのランナー育成の部を設け、ジョギングを中心に楽しんでランニングし健康維持とその向上を目的としている方々を指導していくほか、フルマラソンなど本格的なレースにも臨んでいただけるように、個々の目標に応じたカリキュラムにより育成、支

援していく。

本事業においては、参加者全員が陸上競技を楽しめ、スポーツ体験を通じ運動能力、競技レベルが向上できるように日々の練習内容を精査し改良していく。

〈中学生向けアスレチックスクラブ〉

スポーツ庁による教員の働き方改革の推進を踏まえ、地域の総合スポーツクラブとしての受け皿育成を進める国の方向性を考慮しつつ、市町村等の動向や府・市教育委員会とも連携し、学校運動部の将来の在り方のモデルとなれるよう地域クラブとしての方向性を模索していく。

大阪アスレチックスアカデミア・陸上クラブにおいては、将来の国内最高水準の競技力を有する競技者を育成していく。そのため、中学生の時代からその素質を磨き、基礎体力を丹念に育成し、我が国のトップアスリートを育成できる環境を整備する一翼を担っていく。また、その指導、育成過程を通じ、心身の健全な育成を図ることを基本理念としつつも、社会課題の解決にも貢献できる人材の育成を目指していく。

(4)第三期OSAKA夢プログラム事業

第一期事業は、オリンピック競技大会に地元大阪から代表を送り入賞やメダル獲得を目指して、在阪経済界や陸上競技愛好者などからの寄付金により、平成27年9月から実施してきた。第二期事業においては、令和5年度ブダペスト世界陸上競技選手権大会の代表に10名を送り、令和6年度においてはパリオリンピック大会に6名の代表選手をおくることができ本事業の成果となった。しかしながら、準決勝に進んだもののメダル獲得には世界トップとの差があることが判明した。

第三期事業では、これらの反省を踏まえ、将来性のある競技者をジュニア層から選考する取り組みを強化するとともにロスアンゼルスオリンピック・パラリンピック競技大会を目指して複数の代表をおくりメダル獲得を図る。そのため、世界陸連のポイント制度を踏まえつつ、世界トップレベルの指導者のコーチング、海外競技会への積極的な参加、海外のトップ競技者との合同トレーニング参加など積み重ね、指定競技者個々の競技力を高めていく。更なる高みを目指して強化事業を推進していく。

(5)障がい者競技者指導、競技会への役員派遣

令和7年度は、大阪市障がい者スポーツ大会、大阪府障がい者スポーツ大会、大阪府視覚障がい者交流大会の大会運営を行うとともに、競技役員を派遣する。

また、大阪市長居障がい者スポーツセンターから障がい者競技者の育成、指導事業を受託し、ランニング教室を運営するとともに指導者を派遣する。

さらに、大阪府障がい者スポーツ教室、強化記録会及び強化練習会を開催し、指導者を派遣する。

全国視覚障がい者駅伝大会を主管し、競技役員を派遣し、全国障害者スポーツ大会（滋賀県）に選手・役員を派遣する。

6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

公認競技会の運営に係る登録競技者・公認審判員の登録、管理を行うとともに、陸上競技会に関する情報提供や広報事業を実施していく。

(1) 競技者・公認審判員登録管理等

登録競技者数の拡大、登録審判員の活性化などに取り組む。また、審判員の高齢化や登録者の減少が進んでいることから、高校生、大学生等の若年層の公認審判員として活動できるよう検討を進める。

公認競技会を運営する公認審判員の登録、昇格等公認審判員の管理を行うとともに、競技規則に関し修改正の周知、学習や実施指導により知識や技術の向上を図っていく。

(2) 広報事業の推進

陸上競技及び弊会の事業を広く広報するため、ホームページや動画サイト、SNSを使用し、陸

上競技関係者のみならず、陸上競技のファン、一般市民に情報がすばやく届けられるよう競技会の生中継放送やコンテンツの充実を図る。国際標準となる競技成績のタイムリーな公開、各競技会において一般府民が簡単にアクセスできるようスマートフォンへの展開も強化していく。

大阪マラソンでは日本放送協会、民間放送局と連携した中継放送を行うとともに、第12回木南記念陸上では、民間放送事業者とも連携し、実況生中継を行い広く一般市民や陸上競技愛好者に情報を提供していく。

主要事業、主催競技会に関し新聞、放送局、専門誌等に対する資料提供やきめ細やかな情報発信などの広報活動を拡充していく。第三期OSAKA夢プログラム事業に関しては、広報誌「さくら咲く」を発刊し、寄付者、一般府民に広報していく。

(3) 公認審判員の育成等

2025年度審判講習会は、4月にヤンマーフィールド長居、6月に日本万国博覧会記念競技場を使用し数回開催する。本講習会においては、国際陸連及び日本陸連競技規則の修正、改正に関する講習、実技指導を行う。また別途、新規公認審判員の認定講習を随時実施する。

また、AED操作講習会を審判講習会の開催に合わせて実施する。

近年、教員の働き改革等も影響し大規模競技会等の審判数の確保が困難な状況にあり、若い層の審判員の育成、各競技会に協力してもらいやすくなるよう各種の施策を検討していく。

(4) 組織運営

各種の競技会数の増加や国際化を推進していく中、企画・運営人材が不足し、円滑な競技運営に影響していることから、海外選手招請等の専門業務の委託や事務局体制の強化が図れるよう対応策を検討していく。

また、限られた財源のもとに競技会運営、強化事業を推進しており、財源の拡充が求められている。近年の人件費や交通費等の物価の上昇を踏まえ、健全な財務運営となるよう前年度に引き続き収支の改善にも取り組んでいく。

〈以下余白〉

